

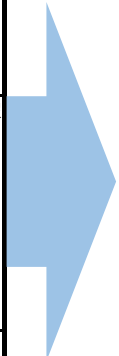
2020年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (NIHOアルテ) 作成日時 (2020年 10月 22日)

代表	施設長	本部
印		

2020年度 改善への取り組み	児童・保護者・支援者にとっての「わかりやすさ」の実現
今年度の施設目標	わかりやすさを実現するための取り組みの具体化 情報共有のための仕組みを実現する

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 活動スペースの確保がされている (テラスの活用) 職員の配置数が適切である 事業所内のバリアフリーが適切である 	<ul style="list-style-type: none"> 10人以上利用の場合に「自分の居場所」がなく落ち着かない児童が見られる 日によって職員の配置に差が出る 可動式のパーテーションが動線の妨げになることがある
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 第三者による外部評価を行っている (コンサルの導入等) 職員の資質向上のための研修機会を確保している 	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムの立案や平日、休日、長期休暇等の環境変化に応じての課題の設定等研修機会のみでは情報共有が十分でない 保護者に対してペアレントトレーニングまたは支援の内容についての丁寧な説明がなされていない
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析されたうえで支援計画が作成されている 活動プログラムが工夫されている 生け花や季節の壁面工作など楽しみにしている 	<ul style="list-style-type: none"> より個性を活かせる支援の提供 本人が相談したり安らげる場としての位置づけになって欲しい 生け花や季節の壁面工作など子供が楽しみにできるイベントや課題を増やしてほしい
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 障害のない子ども達との交流の機会がない 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい共通理解を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 父母会の開催など、保護者同士の連携の機会がない
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> 苦情に対する適切な対応がされている 定期的な活動内容の発信がされている 個人情報に十分注意している 	<ul style="list-style-type: none"> 育児に対する助言等、面談の機会をもっと活用してほしい 面談等直接情報のやり取りが出来る機会に、より丁寧な説明が欲しい
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> 非常時に備え定期的に避難等の訓練がされている 各種マニュアルの作成と保護者への周知がされている 	<ul style="list-style-type: none"> 不定期ではあるが防災だよりとして訓練の様子や避難の情報などを発信し始めているが「いつやっているかを知らない」という声があった スタッフに向けての緊急時対応方法の周知が十分とは言えない



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> インフォログが定着し、パートスタッフからの積極的な情報提供や意見交換が行われ、日常の支援に反映されるようになった。 保護者の気持ちに寄り添う事で相談しやすい雰囲気づくりをし、丁寧な対応を心がけている。 パートスタッフからの発信でプログラム活動を実施することにより、個々の発達段階に合わせた内容で活動を考えてようになってきている。 「子ども達が安心できる場所」を根底に置くことで「なぜ」「どうすればよいか」を考えスタッフ自身の意識向上につながっている。

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> 新規1年生を受け入れたことで、個別対応が必要な児童が増えたため、落ち着いて活動が出来る場所の確保等、再構造化が必要。 緊急時の対応方法などでは、インフォログやミーティングなどで周知はしているが、実際に起きた際の対応に不安があるので具体的な対応方法を常勤で話し合ったり、他のスタッフとのコミュニケーションの中で出てきたプランまで具体的に書き込むようにする。 保護者交流、地域交流の機会が少ないため交流の場の設定を企画していく。 引き続き、全スタッフの共通理解や対応力の向上を図るための施設内研修を行っていく。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 新規受け入れの体制を整える。(新規利用者の情報をインフォログを活用し、スタッフ間に浸透させる。) スタッフの支援の技術向上の一環として、全スタッフ対象に個別課題の考案・作成をすることで、個々の特性や発達段階等を理解し、個別対応や支援の方向性をチームで共有できるようにしていく。 保護者交流の場として、来年度は「5周年記念イベント」を企画・検討する。 緊急時対応(自然災害・感染症等)については、虐待防止研修と同様にスタッフミーティング時に毎回1つのテーマで振り返りや確認が出来るように枠を作り、定期的かつ継続的に話し合いの場を持つ。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>保護者交流の機会の設定に対しては以前から上がっていたが、なかなか実現まで至らなかった。来年度は5周年という事もあり、実現に向けて検討していく。新規1年生の受け入れに関する流れや対応、成長と共に現れる子ども達の変化や保護者様の不安や悩みに対応するためにもスタッフ自身が支援に関する基本の理解や知識、臨機応変に対応する能力などが求められていると感じている。以前に比べると、情報共有の方法も確立し、スタッフ間での意見交換も多く聞かれるようになってきている。しかし個々で見ると子ども達にとっての過ごしやすさや、わかりやすさにつながる支援に至っていないケースもあるため、一つずつ課題となっている部分をクリアしていけるよう取り組んでいく。</p>

来年度の施設目標	利用者個別の支援方法をご家族と共有し、他機関との連携を濃くしていく
----------	-----------------------------------